

鷺宮地区文化財お散歩マップ解説集

鷺宮神社とその周辺を歩く

靈樹寺 (れいじゅじ)

- 曹洞宗の寺院。寺号は鷺宮山鶴松院靈樹寺(じゅぐうざんかくしょういんれいじゅじ)。
- 本尊は釈迦如来・文殊菩薩・普賢菩薩の三尊。
- 開山は福島県白河市の関川(かんせん)寺の2世万室庭拾(法光禅師)。
- 神主大内氏の夫人月窓妙愛大姉が法光禅師を招いて開基したと伝える。夫人は永正元年(1504)に没している。



寺号の由来は、白鶴が松の枝をくわえて飛びおり、くちばしで土を掘ってさし木をしたところ、この松の枝に根が生え、枝葉が茂って生育した。これをみた村人は、この松の木のかたわらに一寺を建立したことによると伝える。

木造釈迦如来坐像

- 県指定有形文化財
- 霊樹寺の客仏。高さ87.2cm
- もともと鷲宮神社の別当大乘院の仏像であった。明治時代初めの神仏分離令により大乘院が廃されたため、霊樹寺が引き取ったという。
- 大乘院の再興に尽力した護持院の隆光が奈良の唐招提寺の古仏を寄附したものと伝えられている。



鷲宮神社

- 太田荘の総鎮守。
- 鎌倉時代には鶴岡八幡宮などとともに幕府ゆかりの有力社の一つに加えられた。
- 南北朝時代には下野国守護の小山義政により、社殿の修築、太刀の奉納が行われた。
- 戦国時代には足利将軍家の一族である古河公方、次いで小田原を本拠とした後北条氏から手厚い保護を受けた。
- 徳川家康から400石の社領が寄進された。
- 明治時代初めに神祇官直支配の准勅祭社。その後は県社。現在は別表神社。

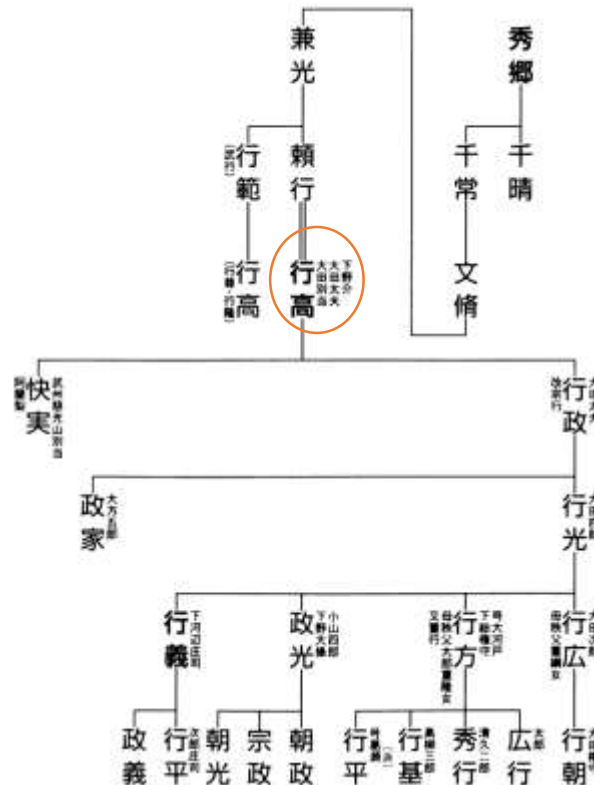


太田荘の総鎮守

- 太田荘は、太田氏の開発した荘園。太田氏は、平将門を討った藤原秀郷の末裔。
- 範囲は、現在の羽生、加須、久喜、白岡、宮代、岩槻など。
- 遅くとも12世紀後半には、鳥羽上皇第3皇女・八条院暲子(しょうし)の女院領として成立

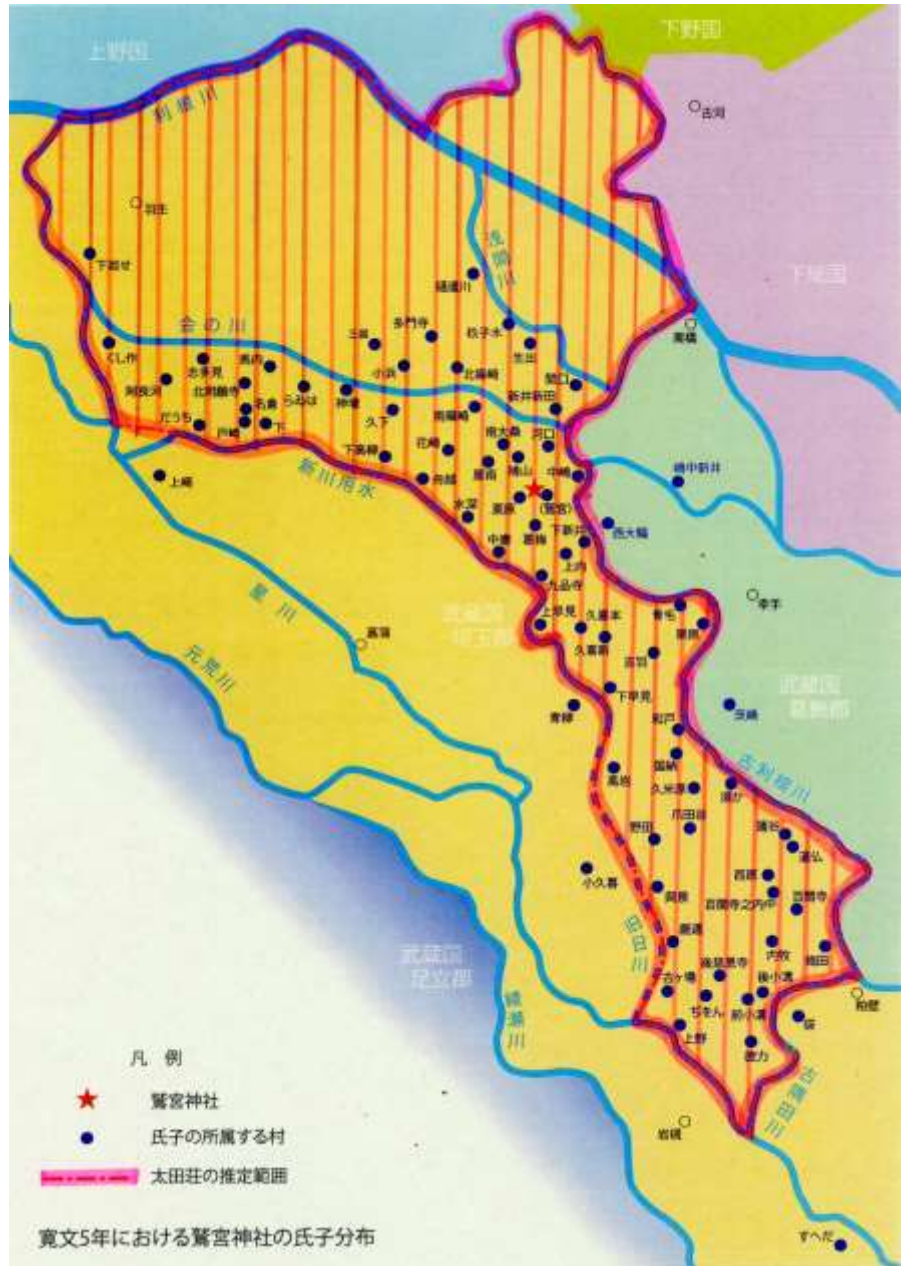
※後白河院領とする説もある

- 鷲宮神社は、太田荘の開発領主である太田氏に關与する神社として発展してきたと考えられている。



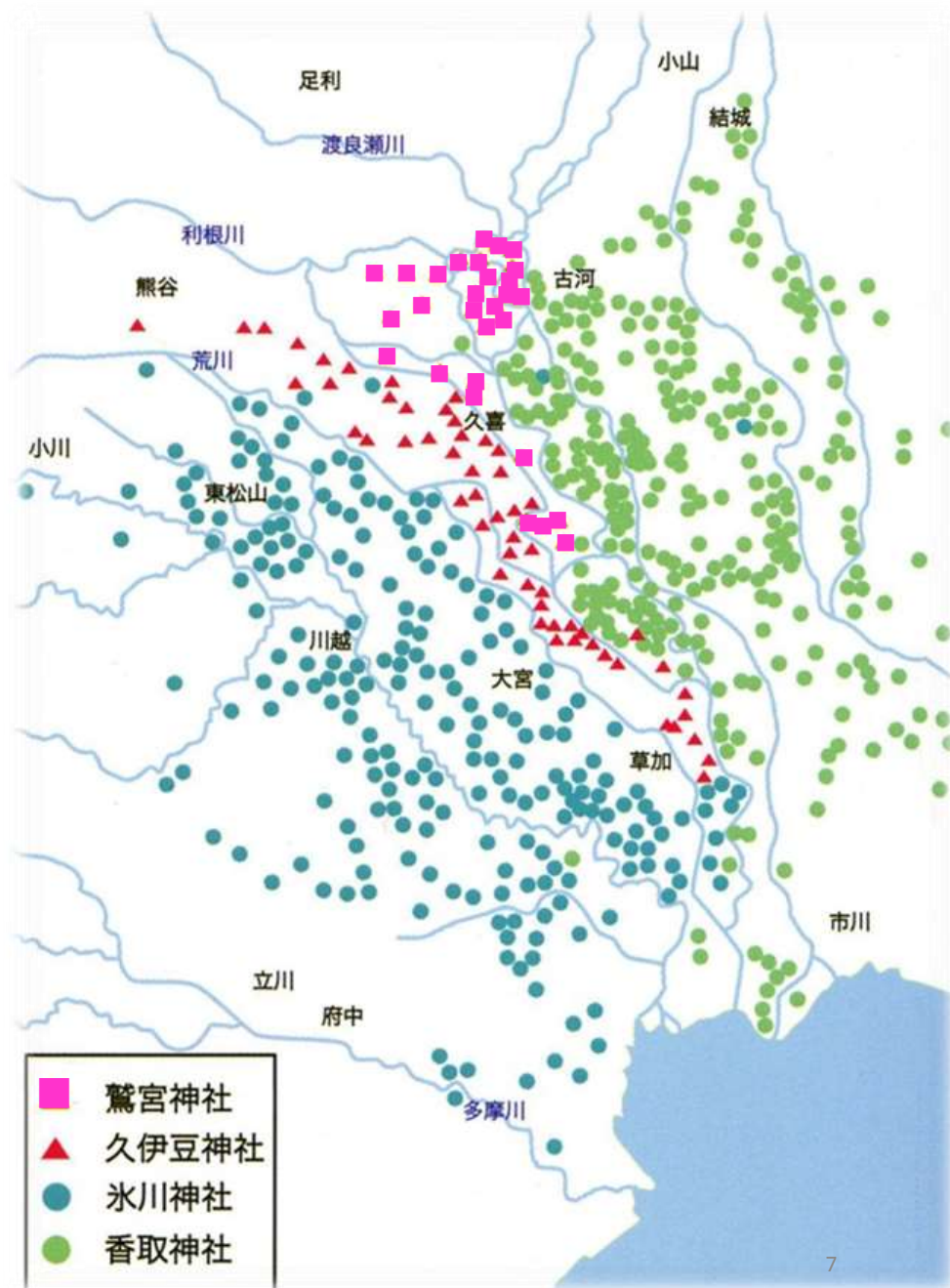
太田荘の荘域

- 寛文5年(1665)に鷲宮神社神主の大内秀勝が氏子の所属村名・名前・人数について記した帳簿。
- 近世初期において鷲宮神社が太田荘の荘域をどのように認識していたか知ることができる。



鷲宮神社の分社

- 鷲宮神社の分社の分布からも、その信仰圏が太田荘を中心としたものであることが確認できる。
- 太田荘は、早くに荘園としての実態を失なう。
- 当社は各時代の権力者から崇敬をあつめた。



鷺宮神社に伝わる文化財

| 文化財の種別 | 名称 | 員数 | 所有者(管理者) | 指定年月日 |
|--------------|--------------------------|-------|-----------------------|------------------------------------|
| 国指定重要文化財 | 太刀 | 1口 | 鷺宮神社 (東京国立博物館) | 大正3年4月17日 |
| 国指定重要無形民俗文化財 | 鷺宮催馬楽神楽 | | 鷺宮催馬楽神楽保存会 | 昭和51年5月4日 |
| 県指定有形文化財 | 銅製双鶴蓬萊文鏡 | 1面 | 鷺宮神社 (久喜市立郷土資料館) | 昭和31年11月1日 |
| 県指定有形文化財 | 銅製桐文方鏡 付沈金彫桐文筥 | 1面 | 鷺宮神社 (久喜市立郷土資料館) | 昭和39年3月27日 |
| 県指定有形文化財 | 銅製御正体 | 2面 | 鷺宮神社 (久喜市立郷土資料館) | 昭和39年3月27日 |
| 県指定有形文化財 | 銅製蓬萊文鏡 | 1面 | 鷺宮神社 (久喜市立郷土資料館) | 昭和39年3月27日 |
| 県指定有形文化財 | 鷺宮神社文書 付棟札1枚・文書3 点 | 23点 | 鷺宮神社 (久喜市立郷土資料館) | 昭和39年3月27日 (追加指定) 昭和56年3月27日 |
| 県指定史跡 | 寛保治水碑 | 1基 | 鷺宮神社 | 昭和3年3月31日 |
| 市指定有形文化財 | 鷺宮神社関係資料 | 約500点 | 鷺宮神社 (一部久喜市立郷土資料館) | 昭和52年9月8日 |

当社には、小山義政が奉納した「吉次」の太刀や古河公方・後北条氏関係の中世文書など、地域の歴史を物語る文化財が数多く伝えられている。

太刀



実物の写真

国指定重要文化財

太刀 永和2年(1376)／鷺宮神社蔵 東京国立博物館寄託

小山義政が永和2年に鷺宮神社へ奉納した太刀で、備中国青江^{びつしやくにあわえ}派の刀工吉次^{とこうよしつぐ}の作です。

刀身の長さ 102cm(3尺3寸5分)

反り 3.3cm

重さ 1.85kg

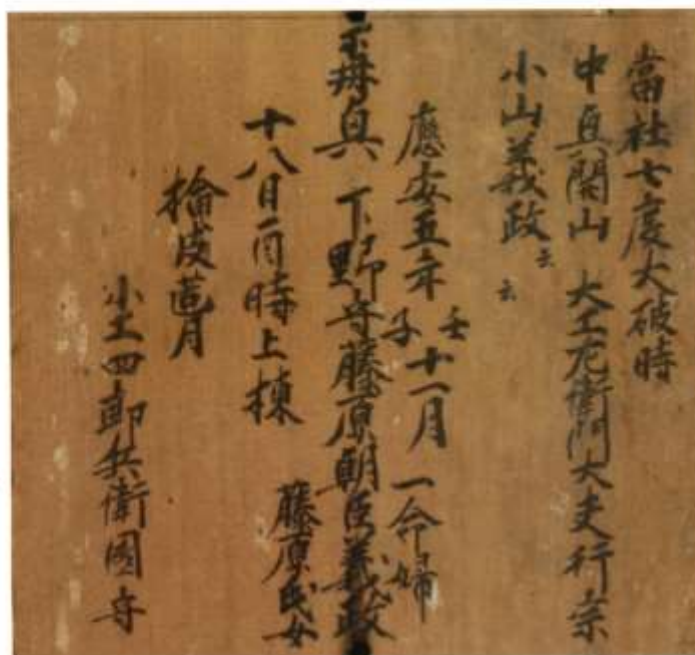
重ね(厚さ) 0.9cm

※展示資料は実物の太刀を忠実に再現したもの(写)です。

時の権力者と鷺宮神社

鎌倉幕府滅亡後も鷺宮神社は、時の権力者たちから厚く保護・信仰されていました。

中でも、下野国小山(現栃木県小山市)を拠点とする、北関東有数の武将である小山義政の保護・信仰は特に厚く、応安5年(1372)の社殿の修復や、永和2年(1376)の銘文がある太刀の寄進をしています。



埼玉県指定文化財

鷺宮神社社殿再興の棟札

文禄4年(1595)／鷺宮神社蔵

この棟札は、文禄4年に社殿を再建した際に作られたものです。3段に分かれており、下段は文禄4年の再建について記していますが、上・中段には古い棟札を写したと思われる記述があります。上段には鎌倉幕府執権北条貞時しげけんほうじょうきだときによる正応5年(1292)の神社再建、中段には小山義政による応安5年(1372)の神社再建について記しています。

鷺宮神社所蔵の鏡・御正体



どうせいそうかくほうらいもんきょう
銅製双鶴蓬萊文鏡

埼玉県指定文化財

鎌倉時代／鷺宮神社蔵

蓬萊山に遊ぶ鶴と亀を描いたものです。蓬萊山とは、中国の伝説で仙人が住み不老不死の地とされる霊山のことです。上方の二ヶ所の穴は、神輿みこしにつるすための穴といわれています。



どうせいほうらいもんきょう
銅製蓬萊文鏡〈複製〉

埼玉県指定文化財

室町時代／鷺宮神社蔵

蓬萊山の文様の吉祥文きつしゆもんが描かれています。

どうせいきりもんほうきょう
銅製桐文方鏡

埼玉県指定文化財

桃山時代／鷺宮神社蔵

この鏡は、類例の少ない長方形の白銅鏡です。背面全体に桐の文様を配し、中央に亀甲文の紐を付け、その上部にくちばしをあわせた鶴を対象的に描いています。



銅製御正体〈複製〉

埼玉県指定文化財

室町時代／鷺宮神社蔵

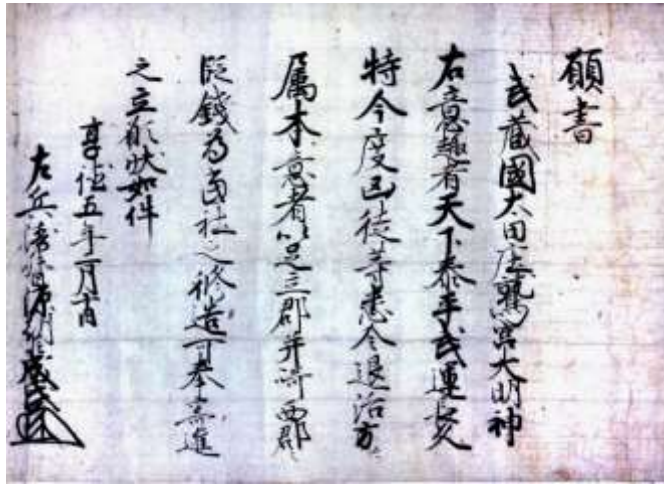
御正体とは社寺に奉納して礼拝対象としたものです。^{かけぼし}懸仏とも呼ばれて鏡面に仏像が配されることも多いのですが、これらの資料にはありません。

(左上)文安2年(1445)、河口郷(現加須市川口)の藤内五郎が奉納したものです。

(左下)長祿2年(1458)、菅垂水郷^{すがたるみこう}(現加須市樋遣川地区)の国吉^{ひやりかわ}が奉納したものです。



古文書 (鷲宮神社文書 付棟札1枚・文書3点)



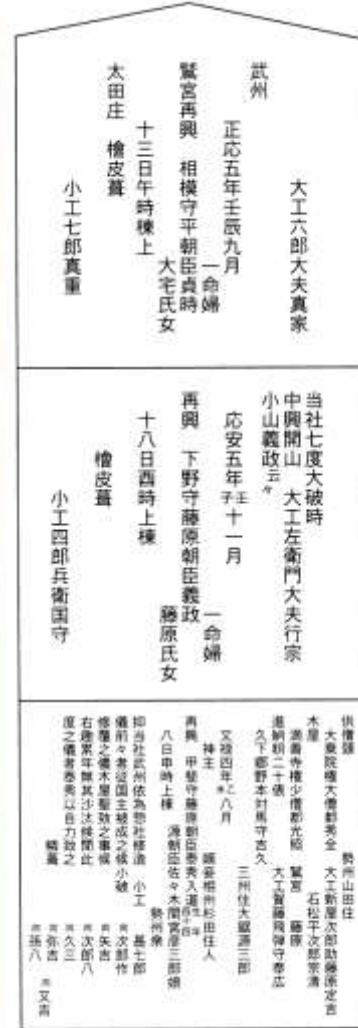
享徳5年(1456)足利成氏願文



天正13年(1585)北条氏印判状



文禄4年(1595)社殿再興棟札



鷲宮神社の社号標1

- 中村不折(ふせつ・1866～1943)の揮毫。
- 不折は明治から昭和にかけての書家・洋画家。
- 昭和8年(1933)に徳富蘇峰(とくとみそほう)と静子夫人、中村不折が鷲宮神社に参拝している。



芳名録

昭和8年(1933) 鷲宮神社
鷲宮神社を訪れた徳富蘇峰(梧一郎)と静子夫人の署名です。



鷺宮神社の社号標2

- 徳富蘇峰(とくとみそほう・1863～1957)の揮毫。
- 蘇峰は明治から昭和にかけて活躍したジャーナリスト・歴史家。本名猪一郎(いいちろう)。小説家の徳富蘆花(ろか)の実兄。
- 相沢正直宮司の叔父熙(ひろし)が、蘇峰の側近であったことから、鷺宮神社境内には蘇峰揮毫の石碑が多い。



鷺宮神社を訪れた徳富蘇峰と夫人(昭和8年)



社号標除幕式(昭和8年)

明治天皇行幸記念碑

- 明治29年(1896)、近衛師団の演習を観覧するために明治天皇が行幸。鷲宮神社社務所が小休所となる。
- 明治天皇行幸を記念した碑が境内に3基ある。
- 徳富蘇峰揮毫による「明治天皇御乗馬繫留処」・「明治天皇御用水之井」、金子堅太郎(枢密院顧問)揮毫による「明治天皇宸憩之处」。



宸憩



御乗馬繫留



御用水之井

狛犬

- 嘉永5年(1852)に造立。
- 製作者(石工)は、鷺宮村(中島地区)の木村佐重郎。



金灯籠

- 文政12年(1829)に建立された青銅製の灯籠。
- 寄附者・世話人として、近隣の村を中心に、現小川町や飯能市内の村なども含めて74か村417名の名前が彫られている。
- 製作者(鑄工)は、江戸大門通(現東京都中央区日本橋周辺)の伊勢屋万之助、土橋文治郎

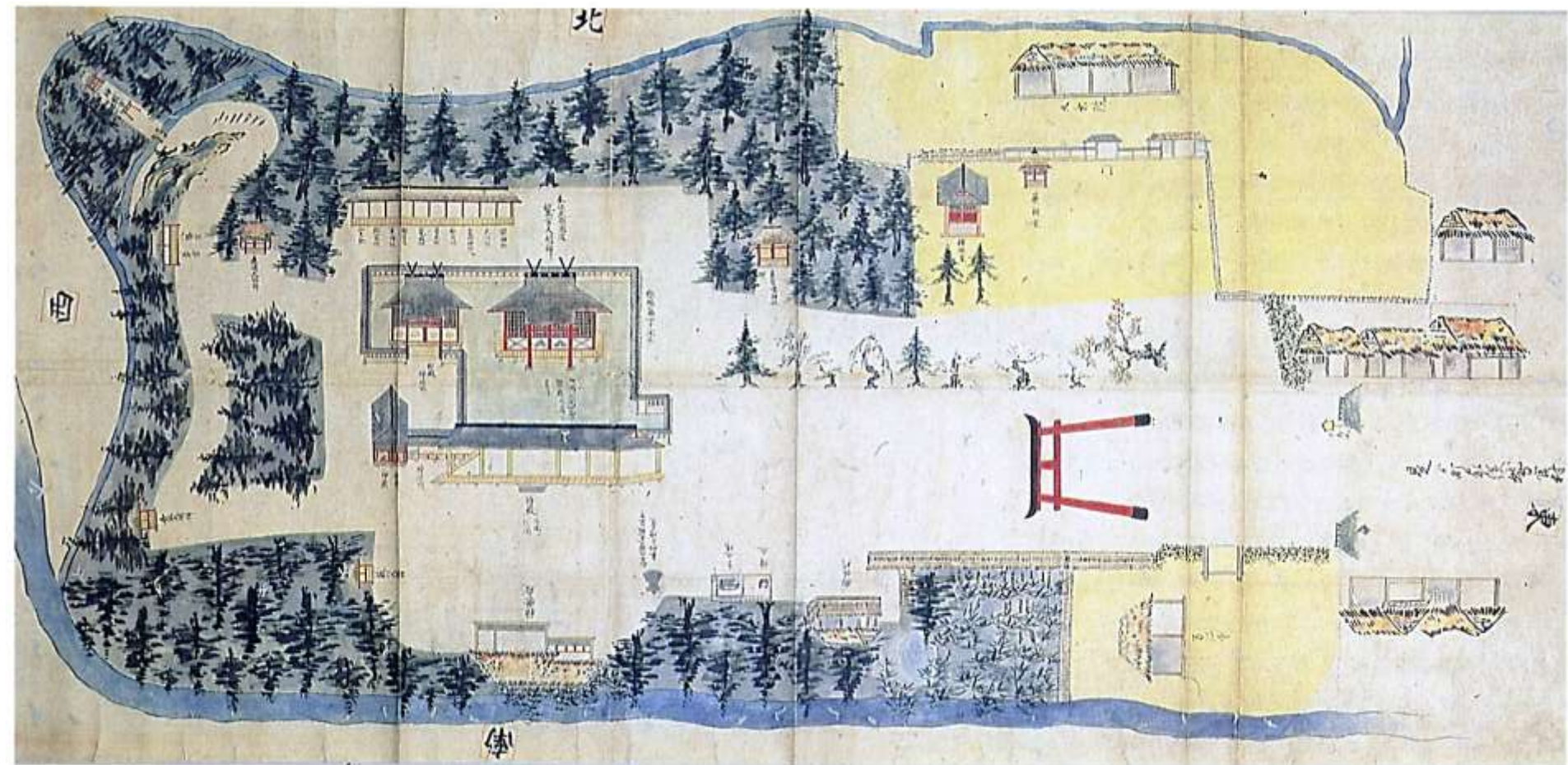


拝殿・本殿・神崎社

- 拝殿の奥に、本殿と並んで神崎社が建つ。
- 神崎社は安政4年(1857)建立。
- 拝殿・本殿は安政7年(万延元年・1860)の建立。



左が拝殿、右手前が本殿、右奥が神崎社



(江戸期 鷲宮神社境内図)

鷲宮神社の祭神

• 祭神

本殿に天穗日命(あめのほひのみこと)・武夷鳥命(たけひなどりのみこと)、神崎社(かんざきしゃ)に大己貴命(おおなむちのみこと)を祭る。

• 社名の由来

天穗日命らが出雲から関東開拓に来た際に同行してきた土師部の人達が創建した神社なので、当初は「土師宮(はじのみや)」と称していたとの伝説がある。



左から神崎社、本殿、拝殿(昭和7年撮影)

寛保治水碑 (かんぽうちすいひ)

- 県指定史跡
- 寛保2年(1742)の洪水で氾濫した利根川の復旧工事を幕府から命じられた毛利家(現在の山口県)が、その完工記念として翌年鷲宮神社に建てた灯籠型の記念碑。高さ2.6m
- 儒学者服部南郭の撰文。
- 碑文から利根川南側の地域を担当した毛利家の難工事の様子がわかる。



神楽殿

- 鷺宮催馬楽神楽(わしのみやさいばらかぐら)を行うための舞台。
- 文政4年(1821)に建立。
- 拝殿と向かい合った位置にある。祭神に神楽を直接見てもらうためだといわれている。



鷺宮催馬楽神楽

- 国指定重要無形民俗文化財
- 江戸の里神楽をはじめとして、関東各地の神楽の源流。
- 古い形態を残している(演劇風ではなく、舞踏)
- 催馬楽は、平安時代に流行した歌謡。
- 江戸時代中期にそれまでの神楽を再編して成立。
- 年6回(1月1日、2月14日、4月10日、7月31日、10月10日、12月初酉日)



第4座降臨御先猿田彦鈿女之段



第5座磐戸照開諸神大喜之段

迦葉院(かしょういん)

- 曹洞宗の寺院
- 享保20年(1735)に、黙山元轟(もくざんげんごう)を住職に招き、曹洞宗の寺院として現在地に再興。
- 雲水と呼ばれる修行僧の修練道場として栄えた。
- 迦葉院関係資料は、市指定有形文化財(古文書)。
- 山門に「古霞関」とあり、この辺一帯に河関があったと伝わる。

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 名称 | 天王峰鶏足山迦葉院 |
| 開山 | 黙山元轟 |
| 開基 | 白石兵左衛門(西大輪)・斉藤忠兵衛(騎西) |
| 開山年 | 享保20年 |
| 本尊 | 千手観音(現在は釈迦如来) |
| 寺格 | 随意会地(明和5年より) |
| 本寺 | 阿弥陀寺(岐阜県岐阜市)→源光庵(京都市北区)(寛政4年本寺変更) |



迦葉院本堂

元文2(1737)年に黙山が建てた本堂が、現在でも火災等にあわずに現役として活躍しています。



迦葉院山門

『新編武蔵風土記稿』には「宇治黄檗山の山門を模して造れる所なりと云」とあり、黄檗宗の大本山である黄檗山万福寺(京都府宇治市)の山門を模して造られていることが分かります。

西大輪神社

- 平成19年10月に大輪神社から分祀して成立。元々は大輪神社の御仮屋(おかりや)。
- 大輪神社は、西大輪村の鷲大明神と東大輪村の八幡神社が合祀してできた神社。
- 御仮屋は、秋祭りのときに、西大輪村に神様(鷲大明神)をお迎えするところで、大輪神社のほかに、御仮屋でも秋祭りが行われてきた。



雷電社 (らいでんしゃ)

- 西大輪神社と敷地を共有する神社。
- 降雨や雷除けが祈願されてきた。



西大輪砂丘(にしおおわさきゅう)

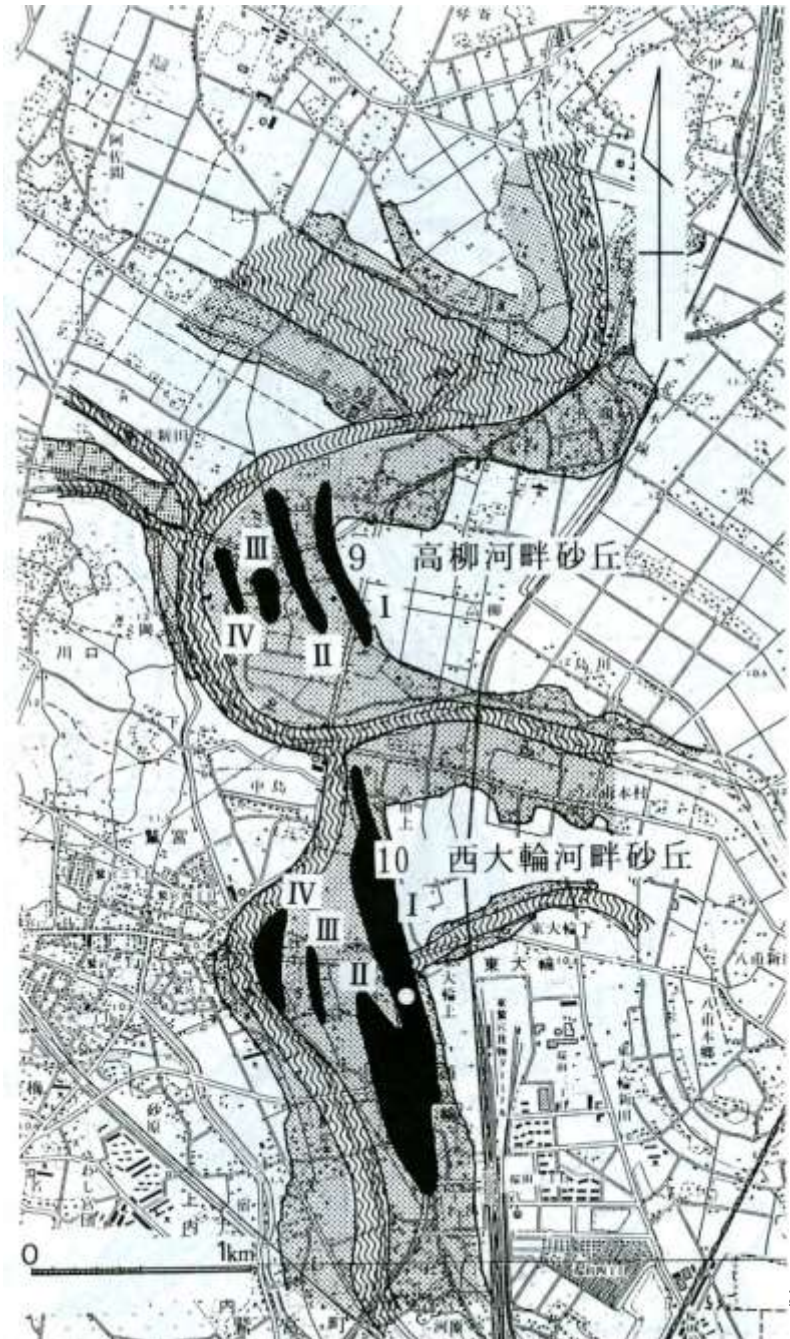
- 西大輪砂丘は、古利根川の東側に分布する、4列からなる大規模な河畔砂丘(かはんさきゅう)。
- 河畔砂丘は、河原の砂が吹きためられて形成された内陸性の砂丘。
- 西大輪神社・雷電社境内が、平成28年3月に「中川低地の河畔砂丘群 西大輪砂丘」として県指定天然記念物になる。



西大輪神社・雷電社境内

西大輪砂丘

- 東側の2列の規模が大きく、現在も全域で砂丘の高まりを感じられる（長さ1,600m・幅150m、長さ980m・幅200m）



河畔砂丘の分布

- 河畔砂丘が形成されるためには、砂の河原ができる大きくてゆっくりとした流れの川があり、一定方向から風が吹き続けるなどの条件が必要。

| 番号 | 本報告 |
|----|-----|
| 1 | 新郷 |
| 2 | 岩瀬 |
| 3 | 砂山 |
| 4 | 須影 |
| 5 | 志多見 |
| 6 | 南篠崎 |
| 7 | 飯積 |
| 8 | 原道 |
| 9 | 高柳 |
| 10 | 西大輪 |
| 11 | 青毛 |
| 12 | 高野 |
| 13 | 小淵 |
| 14 | 藤塚 |
| 15 | 松伏 |
| 16 | 上赤岩 |
| 17 | 浜川戸 |
| 18 | 長宮 |
| 19 | 袋山 |
| 20 | 大林 |
| 21 | 北越谷 |
| 22 | 東越谷 |
| 23 | 大相模 |

